

えくび通信

令和六年十月号(第七十六号)

発行
恵久美を元気にする会



秋暑の夜の夢

えくび夜市

主催・恵久美を元気にする会

子供の頃、夏休みと言えば毎日が楽しく素敵な思い出が作れる時間でした。それが8月31日を過ぎると・・・。夏休みが終わってしまった子供たちを元気にするには？「銀天街や伊予市の夜市も9月には終わっている。地元恵久美で楽しんでもらえる夜市をやろう」と大西さんの発言でこの企画が生まれました。恵久美では8月に盆踊り、11月には文化祭があります。折角やるなら、どちらにも被らない企画にしたい。

そこで生まれたのが射的。知ってはいるが意外と経験がないし、男子は本能的に銃に興奮するところがあります。「景品をつするっ」「おもちゃ屋で買ってきた銃で。」あーでもないこうでもないと言いつつながら的を作って撃つてみた

打ち合は20時半からと、仕事終わりで疲れているはずなのに、皆活発にアイデアを出し合い、シャボン玉パフォーマンスのために全身泡だらけで、腕がきしむまで練習し、イベント近くになると24時を越えてグラウンドのベンチで話し込んでいる事もありました。子どもたちをがっかりさせたくない、楽しんで欲しいという気持ちがそうさせました。

メンバーは職種も趣味も違い、女性も加わり、色々な角度のアイデアがあったからこそあの夜市の形が出来ました。

企画当初のメンバーは3人で、台所は火の車なので大きな予算を投入する事は考慮できず、第一回はスモールスタートで行こうと計画、盆踊り位来てくれたら良いなどの想定です。恵久美は地区行事が盛んですが、人口減少で行事やお神輿、獅子舞など出来なくなっている地区もあります。そんな地区の子供たちも楽しませたいと、地区外にもポスティングやチラシ貼りを

行い、メンバーそれぞれが声掛けをおこなってくれたおかげで、想定のお3倍ほどの来場となりました。壮年部の手練れの皆さんがフルに活躍してくれて、恵久美を元気にする会のメンバーと助っ人の中学生も一生懸命に頑張ってくれたおかげでギリギリ持ちこたえましたが、全ての食べ物が完売してしまったのは嬉しくもあり、お客様には申し訳なかったです。

皆様のお叱りなくば次回は反省を活かし、さらにパワーアップしてやります。恵久美を元気にする会は、夜市以外にも子供たちがワクワクする事をして恵久美を盛り上げますので、応援よろしくお願いします。ご来場の皆さん、関係者の皆さんお礼申し上げます。有難うございました。

代表 小林祐介
恵久美を元気にする会



笑顔！笑顔！みんな揃って反省会

松前町の防災の取り組み

松前町では今年の3月に公式ラインを始めました。スマホだけで粗大ごみの申請が出来たりと日々使いやすく進化中です。その中で特に私が特別にお勧めしたいのは！危機管理課からの防災情報です。

台風10号の接近にともない8月29日から31日朝まで松前町では3カ所の自主避難所を開設してました。皆さん知ってましたか？

町のホームページや防災無線でアナウンスされましたが、私の周りではそこから知った人はいませんでした。防災無線は聞こえない家があります。西日本豪雨の時に西予市では雨音に消され誰も放送を聞いていなかったと消防団の人が嘆いていました。情報を知れば早めの避難が出来る、助かる命が確実に増えます。ラインなら外出中にも、いつでも情報が入ってきます。Yahoo!防災アプリと松前町公式ラインを今すぐ入れて災害に備えましょう。3分で出来る防災絶対にとって損は

ありません。

自主避難所の話に戻りますが、西公民館、東公民館、北公民館の3カ所の開設中に訪問して町長と役場の人からお話を聞いてきました。日中は公民館の職員さんがおり、公民館閉館時間からは役場職員が2交代で対応されています。食料や布団などは各自持参という前提でしたが、今後布団などの購入も少量にはなりますが検討しているようです。3カ所とも畳の部屋を開放しており、エアコンも稼働しており、滞在人数次第では快適な環境だと感じました。自主避難所の開設は過去の松前町では無い対応で、松前町が防災に対して前を向いて進んでいる事が感じられます。

防災担当の危機管理課では楽しい防災にも取り組もうとしています。

今月号の広報まさきでも取り上げられますが11月23日には親子向けの防災企画も行われます。私もスタッフとして参加する予定で楽しみにしています。是非みなさんのご参加お待ちしております。

LINE「友だち追加」から「松前町公式LINE」を検索し、IDを入力する



新しい「コミュニティづくり」

▼「この世で情熱なしに達成された偉大なことなどないと確信する」これはドイツの哲学者ヘーゲルの言葉である。

先日、実施された「恵久美夜市」は、まさにこの言葉があてはまる行事であった。恵久美を元気にする会X世代三人組の熱い情熱に家族が共鳴し、同世代の親が共感し、その情熱にシニア世代をも巻き込む。「子ども達に感動体験を！思い出づくりを！」という思いを参加者全ての人が共有できた価値あるイベントとなった。従来のような前年を踏襲する型通りの行事とは一味も二味も違っていた。奇抜性あり、参加性あり、競技性ありのオリジナリティ溢れるものとなった。

▼現役X世代は多忙である。発案から実施まで1ヶ月半、企画会議も頻繁とはいえず不安の中のスタートだった。「自

分達でできる事は自分たちで」の精神で、地区外へのチラシ配布やSNSの発信など、広報活動も一軒一軒足を運んで住民の元へ。それでもテント張りなどの準備には、地区の経験豊富なレジエント達が稲刈りの多忙な時期にもかかわらず助っ人に駆けつけていた。共に流した汗はX世代にとって今後の活動に活かせる貴重な経験になったのではないだろうか。当日は、頼りになる壮年部のお兄さん達も駆けつけ、かき氷づくりのアドバイスなど、物心共のサポートに感謝。X&Z世代との微笑ましい交流もあり、

これぞ地区のコミュニティと思える光景が会場のおちこちで見られたのは、新しい恵久美コミュニティを創造させるものであった。

▼地域は「行政だけに任せるのではなく、地域でできることは地域で決める」とコミュニティの独自性が問われている。元気にする会の「子ども遊びランド」をはじめとする諸活動は、地域コミュニティ活性化に大きく貢献している

のではないだろうか。今後この活動を持続的可能なものに発展させ、「子ども達に感動体験を！思い出づくりを！」のアイデンティティのもと、X世代の「恵久コミュ」として飛躍していただきたい。

今回参加した子ども達は128名(地区外も含む)。これほどの子ども達が集まったイベントが今までにあったのだろうか。大字恵久美には一切頼らず、自分達のアイデアと人脈と行動力で成功させた恵久美の歴史の1ページを飾るに値する素晴らしいイベントとなった。

▼大字恵久美執行部への要望
地域のことを熱く思い「恵久美夜市」開催のために自前で資金集めに奔走し、連日連夜準備に奮闘したスタッフに対し、大字恵久美執行部として、無関心ではなく、その活動に労を労い、感謝の意を表わすことを強く要望したい。

恵久美通信編集長 山本正司

元み久画
次読恵動
二をのい
記と市
下コ取
取美を
取美を
取美を

